

CASBEE あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BC_2016(v3.0)_AICH

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)愛知県安城市物流倉庫	階数	地下4階地上0階
建設地	愛知県安城市和泉町大海古7番6	構造	S造
用途地域	都市計画区域内(市街化区域)	平均居住人員	90人
気候区分	6地域	年間使用時間	3,650時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2024年9月 予定	評価の実施日	2023年7月24日
敷地面積	6,386㎡	作成者	岡田 篤
建築面積	3,353㎡	確認日	2023年7月24日
延床面積	13,163㎡	確認者	岡田 篤



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 74%

③上記+②以外の 74%

④上記+ 74%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 3.3

Q1 室内環境: 2.9

Q3 室外環境(敷地内): 1.8

LR1 エネルギー: 4.3

LR2 資源・マテリアル: 3.6

LR3 敷地外環境: 3.6

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 1.8

LR のスコア = 3.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.6

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>4.0</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>7.6 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.4</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3.1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
 Q-2.2 耐用性・信頼性、Q-2.3 対応性・更新性
 LR-2.2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
 Q-3.1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
 ((仮称)愛知県安城市物流倉庫)

欄に数値またはコメントを記入
 ■使用評価マニュアル: ■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
 CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準	重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル			0.1	3.4	0.15					2.6
1.2 遮音			3.0	3.0	0.40					2.9
1 開口部遮音性能		事務室:遮音性能T-2(A-41)	0.4	4.2	0.40					3.4
2 界壁遮音性能				5.0	0.60					
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	0.40					
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音				3.0	0.20					
2 温熱環境										
2.1 室温制御			0.3	2.6	0.35					2.6
1 室温			0.5	3.0	0.50					
2 外皮性能			3.0	3.0	0.38					
3 ゾーン別制御性			3.0	3.0	0.25					
2.2 湿度制御			3.0	1.0	0.20					
2.3 空調方式			3.0	3.0	0.30					
3 光・視環境										
3.1 昼光利用			0.2	2.6	0.25					2.6
1 昼光率			0.3	1.8	0.30					
2 方位別開口			3.0	1.0	0.60					
3 昼光利用設備			3.0	3.0	0.40					
3.2 グレア対策			0.3	3.0	0.30					
1 昼光制御			5.0	3.0	1.00					
3.3 照度			3.0	3.0	0.15					
3.4 照明制御			3.0	3.0	0.25					
4 空気質環境										
4.1 発生源対策			0.2	3.3	0.25					3.3
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆(A-10)	0.5	4.0	0.50					
4.2 換気			3.0	4.0	1.00					
1 換気量			0.3	1.6	0.30					
2 自然換気性能			3.0	3.0	0.33					
3 取り入れ外気への配慮			3.0	1.0	0.33					
4.3 運用管理			0.2	4.0	0.20					
1 CO ₂ の監視			3.0	3.0	0.50					
2 喫煙の制御		4階喫煙室(A-30)	3.0	5.0	0.50					
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ			0.4	3.3	0.40					3.3
1 広さ・収納性			0.4	2.3	0.40					
2 高度情報通信設備対応			3.0	1.0	0.33					
3 バリアフリー計画		独自	3.0	3.0	0.33					
1.2 心理性・快適性			0.3	4.0	0.30					
1 広さ感・景観 (天井高)		事務室CH-2800(A-11)	3.0	4.0	0.33					
2 リフレッシュスペース		4階休憩室+自販機設置(A-15)	3.0	5.0	0.33					
3 内装計画			3.0	3.0	0.33					
1.3 維持管理			0.3	4.0	0.30					
1 維持管理に配慮した設計		①防汚性の高い内装仕上げ材 ②防汚性の高い床材 ③床面は洗浄可能な床材(ビニール床シート) ⑤風除室距離確保 ⑥維持管理が異なる床材(タイルカーペット、ビニール床シート) ⑩金属部は防錆対策	3.0	4.0	0.50					
2 維持管理用機能の確保		①掃除用具入れ(A-28~30)②洗い場設置(M-02) ⑤清掃用流し(図面M-02)⑥電源計画(E-25) ⑧各排水トラップは取り外し、清掃可能(仕様書) ⑨バルブ調整可能(仕様書) ⑪共用部での維持管理作業可能_PS(A-28~30)		4.0	0.50					
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振			0.3	2.9	0.31					2.9
1 耐震性(建物のこわれにくさ)			0.4	3.0	0.48					
2 免震・制震・制振性能			3.0	3.0	0.80					
2.2 部品・部材の耐用年数			3.0	3.0	0.20					
1 躯体材料の耐用年数		②	0.3	3.0	0.33					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.23					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				2.0	0.23					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.09					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.08					
6 主要設備機器の更新必要間隔				5.0	0.15					
2.4 信頼性			0.1	2.8	0.19					
1 空調・換気設備			3.0	3.0	0.20					
2 給排水・衛生設備			3.0	3.0	0.20					
3 電気設備		②	3.0	3.0	0.20					
4 機械・配管支持方法			3.0	3.0	0.20					
5 通信・情報設備			3.0	2.0	0.20					

3 対応性・更新性				0.2	3.6	0.29	-	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり				0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり					5.0	0.60				
2 空間の形状・自由さ				3.0	5.0	0.40				
事務所階高6.7m、工場階高6.55m(A-19)										
事務所壁長さ比率:0.194、工場壁長さ比率0.085(A-14)				3.0	3.0	0.31				
3.2 荷重のゆとり				0.3	3.1	0.38				
3.3 設備の更新性			②							
1 空調配管の更新性					4.0	0.17				
2 給排水管の更新性				3.0	3.0	0.17				
3 電気配線の更新性				3.0	3.0	0.11				
4 通信配線の更新性				3.0	3.0	0.11				
5 設備機器の更新性				3.0	3.0	0.22				
6 バックアップスペースの確保				3.0	3.0	0.22				
仕上材を痛めることなく更新・修繕工事可能(M-18)										
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.39				1.8
1 生物環境の保全と創出			独自③			1.0	0.30			1.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④			2.0	0.40			2.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.5	0.30				2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④			3.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上						2.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性										3.9
LR1 エネルギー					-	0.40				4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI=0.59	3.0	5.0	0.21			5.0
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.11			3.0
3 設備システムの高効率化				BEI=0.48	3.0	5.0	0.49			5.0
4 効率的運用					0.2	3.0	0.20			3.0
集合住宅以外の評価					1.0	3.0	1.00			
4.1 モニタリング					3.0	3.0	0.50			
4.2 運用管理体制					3.0	3.0	0.50			
集合住宅の評価										
4.1 モニタリング										
4.2 運用管理体制										
LR2 資源・マテリアル						-	0.30			3.6
1 水資源保護					0.1	3.4	0.15			3.4
1.1 節水										
自動水栓・節水型便器(M-02)					3.0	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.0	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.67			
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	3.7	0.63			3.7
2.1 材料使用量の削減						2.0	0.67			
2.2 既存建築躯体等の継続使用						3.0	0.24			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用						3.0	0.20			
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			② 独自		3.0	5.0	0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	2.0	0.05			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自		3.0	5.0	0.24			
躯体と仕上材が容易に分別可能 内装材と設備が錯綜せず、容易にそれぞれ取り外すことができる。 (A-10,11)										
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.3	0.22			3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	4.0	0.32			
対象物質を含有しない建材を使用					0.6	3.0	0.68			
3.2 フロン・ハロンの回避						-				
1 消火剤						3.0	0.50			
2 発泡剤(断熱材等)						3.0	0.50			
3 冷媒					3.0	3.0	0.50			
LR3 敷地外環境						-	0.30			3.6
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率74%		4.0	0.33			4.0
2 地域環境への配慮					0.3	3.6	0.33			3.6
2.1 大気汚染防止						5.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善						3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	3.5	0.25			
1 雨水排水負荷低減			独自			3.0	0.25			
2 汚水処理負荷抑制						3.0	0.25			
3 交通負荷抑制			独自			5.0	0.25			
4 廃棄物処理負荷抑制						3.0	0.25			
自転車置き場(A-68)、駐車場、大型車待機駐留場、 駐車場の導入路の位置や形状への配慮(A-68)										
3 周辺環境への配慮					0.3	3.2	0.33			3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40			
1 騒音			独自			3.0	1.00			
2 振動			独自			-				
3 悪臭						-				
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					0.4	3.0	0.40			
1 風害の抑制						3.0	0.70			
2 砂塵の抑制						3.0				
3 日照障害の抑制						3.0	0.30			
3.3 光害の抑制					0.2	4.4	0.20			
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策						5.0	0.70			
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策						3.0	0.30			
公害対策ガイドラインのチェックリストを満たしている。 広告物照明なし。										

重点項目スコアシート
【仮称】愛知県安城市物流倉庫

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.0	0.10	
② 資源の有効活用				3.4
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.12	外構緑化:7.6%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)愛知県安城市物流倉庫

計画上の配慮事項	
総合	外壁材・屋根材は、断熱性能を備えた建材を採用し、外部からの熱負荷低減に努めると共に、高効率照明の採用にて省エネ対策に配慮した。
Q1 室内環境	事務室の開口部は遮音性能T-2仕様を採用。
Q2 サービス性能	耐久性の高い材料を使用し、階高にゆとりを持たせることで更新性に配慮した。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地内に可能な限り植栽を計画し、周辺環境に配慮した。
LR1 エネルギー	建物の外皮性能の向上と設備の一次エネルギー消費量の低減を図った。
LR2 資源・マテリアル	躯体材料以外でリサイクル材を採用し、省資源に努めた。また衛生器具では自動水栓や節水型便器を採用し、水資源の保護に努めた。
LR3 敷地外環境	敷地内に駐車場や大型車の大気スペースを計画することで、周辺の交通負荷抑制に努めた。
その他	